

オープンカレッジ 2019 学校説明会

明生情報ビジネス専門学校
IT&リテラシーカレッジ

※当日使用した資料の抜
粋版です

情報系の
専門学校とは？

専門学校^の教育とは

専門学校とは、
専門性のある職業教育を行う学校

職業に就く(つく) = **プロ**になること
ある分野のプロになることが就職(就社とは限らない)

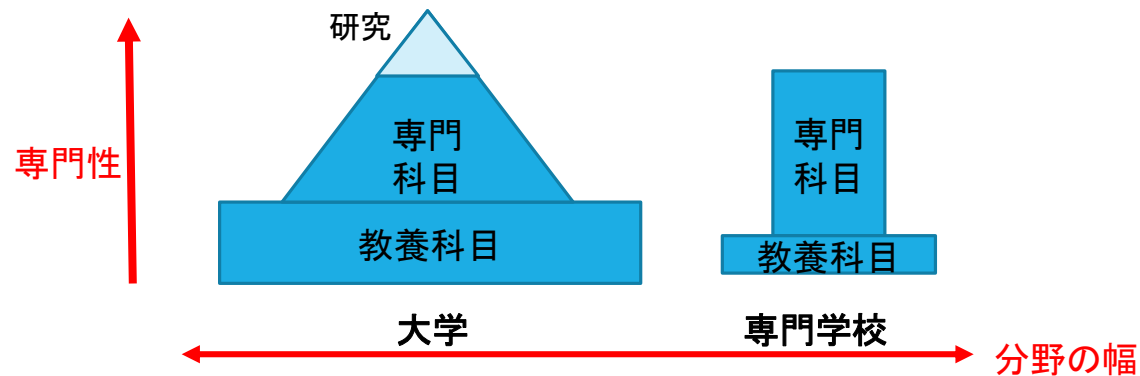
プロが仕事でお金をもらうためには、アマチュアよりも高いレベルの仕事をしなければいけない

そのための教育が**職業教育**

大学と専門学校の違いとは

カリキュラム構成の違い

- 大学は幅広く、専門学校は狭く深く。



指導方法の違い

- 大学は自主性重視。ゼミ・研究室に所属すれば卒業論文などの指導は個別、だがそれ以外の授業科目や就職活動では、個別指導はあまり受けられない。
- 専門学校は授業・資格対策・就職活動は個別に細かく指導、その代わり自由度は少ない。

専門学校は資格が重要

大学との違いは「入学試験」

- 大学は学力試験を実施し、難易度が偏差値として認識されている。
- そのため、卒業した大学の名前を使って就職活動を行う。

専門学校は学力試験が無い

- 学力試験が無いので、学校名から学力を知ることが出来ない。
- そのため、就職活動では「取得した資格」「作品」などが重要になる。

情報分野では

- 情報処理技術者試験は、国家試験であり、認知度が高い。
- 試験内容や範囲がしっかり定められている。
- そのため、情報系専門学校では情報処理技術者試験に合格することが重要。

⇒情報処理技術者試験は情報系専門学校の「センター試験」

ITを学ぼう

ITとは？

情報と、それを扱う仕組みについての技術がIT(情報技術)

- 21世紀の今、コンピュータを使わない仕事は無いといっても過言ではありません。
- それは人間の社会や組織は「情報」によって動いていて、情報を最も効果的に扱う道具がコンピュータだからです。
- 特に人工知能は、人間の知的能力を強化する「究極の道具」です。

- 将来、多くの職業が無くなると言われていています。新しい職業は、ほぼすべてITを活用するものになると言われていています。

ITの業界

ソフトウェア業★

さまざまなソフトウェアを開発します。自社で企画して発売する企業と、依頼を受けて開発する企業に大きく分かれます。ハード・ソフトあわせたシステム構築を行うシステムインテグレータとよばれる企業もあります。

メーカー

いわゆる製造業。電子機器だけでなく、自動車や家電などもソフトウェアで制御することが多くなり、ソフトウェア技術者が重要になっています。インターネットと連携する製品も増えています。

情報通信業★

電話会社、インターネットプロバイダやデータセンターなどの企業です。情報配信、SNSやネット通販などの企業も含まれます。非常に変化が早い分野でもあります。

コンサルティング業★

顧客の業務内容を分析し、最適なITシステムを提案し導入する企業です。ITに加え、さまざまな業務に関する知識も重要になります。企業グループの情報システム部門も含まれます。

クリエイティブ

ソフトウェア業・情報通信業に近いですが、「コンテンツ」を提供することが中心である業種です。ウェブデザイン、広告、CG制作、ゲームなどが代表例です。

その他の業界でもITは
さまざまな形で使われている

★本校が特に強い業種

主なITの職種（技術職）

上級職	コンサルタント	対象となる業務を分析し、最適なITシステムを提案する。業務知識、分析力に加えてコミュニケーション能力も必要。	
	ITアーキテクト（設計者）	情報システムに必要な要件を分析・定義し、システム全体を設計する。情報システムに関する高度な知識・経験と、モデルを作成する能力が重要。	
	プロジェクトマネジメント	開発プロジェクトを立ち上げ、計画、実行し、責任を持つ。システム開発の知識、経験に加えて組織運営の経験や経営的視点が重要。	
動かす専門家	ITスペシャリスト	ハードウェアやソフトウェアの専門技術を持ち、最適な情報システム基盤の設計や構築を行う。コンピュータやOSの導入、ネットワーク設計や構築、データベースの設計や導入、システム管理方針の決定、セキュリティ対策などを行う専門家。	★
	アプリケーションスペシャリスト	特定の業務に必要なとなるソフトウェアの開発や導入の専門家。対象業務の知識や分析能力、扱うソフトウェアについての高度な知識が必要。	○
作る専門家	ソフトウェア開発	ソフトウェアの仕様決定、設計、開発を行う専門家。プログラムを開発し、テストを行い、その品質に責任を持つ。	★
	コンテンツ開発	WebページやCGなど、コンテンツ作成についてのスキルを持ち、作成を行う。	○
顧客対応	カスタマーサービス	顧客が導入したシステム（ハード、ソフト、インフラなど）の保守管理やサポートを行う。	★
	ITサービス管理	「サービス」として提供される情報システムについて、提供内容の設計や運用管理を行う。	★

★○情報系専門学校のカリキュラムでカバーしている職種 ★本校が特に重視している職種

ITを使う業界

ユーザー企業

- 「ITを使う企業」のことを「ユーザー企業」と呼びます。
- ネットを活用した販売・サービスを行うためには、新しいシステム開発を自前で行う必要があります。そのため、IT技術者の採用が増えています。

ファッション通販サイトでは
独自のアプリを活用

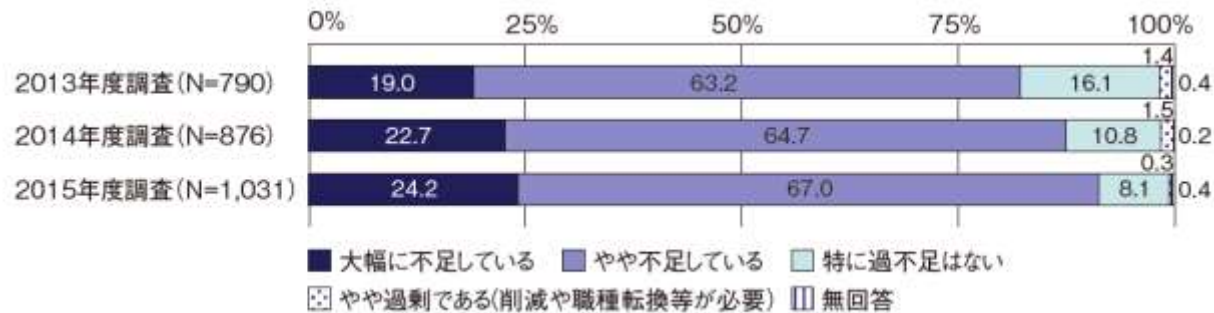
営業・販売など、多くの業種でコンピュータ知識は必須

- コンピュータを使わない仕事はますます少なくなります
- システムはIT専門家が開発しますが、使うのは別分野の専門家であって、IT専門家ではありません。しかし、ITを理解していれば、より効率的にコンピュータシステムを使いこなすことができます。

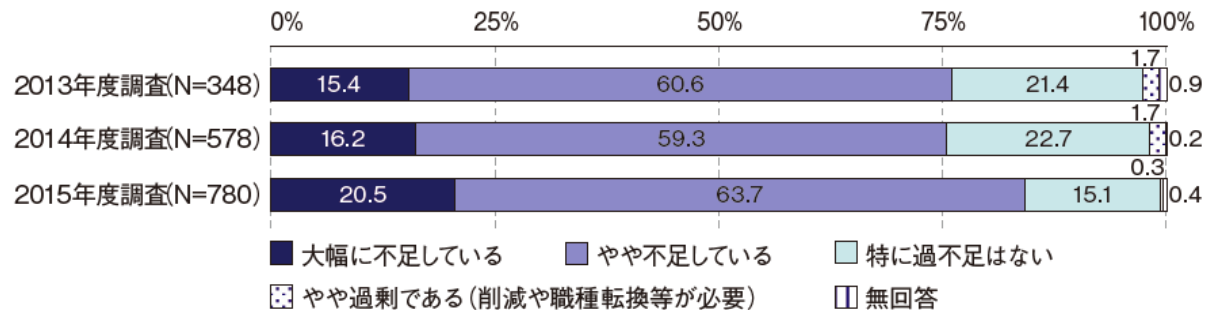
IT専門家が不足

IT企業でのIT専門家の過不足感

出典：IT人材白書2016(IPA)



ユーザー企業でのIT専門家の過不足感



IT分野の初任給は高い

2018年度の業種別の初任給(厚労省調査)では、情報通信業は全業種中の2位。

明生の**2018年3月**
卒業者初任給

平均 18.9万円

業種	大卒	高専・短大	高卒
全	206700	181400	165100
建設業	214600	190500	172300
製造業	205200	179700	164300
情報通信業	215800	188700	164600
運輸業	198600	182200	168500
卸売小売	205500	177900	165100
金融保険	204600	167800	148900
宿泊飲食	198100	175700	164900
医療福祉	201500	183700	159200
サービス	202000	178900	167100

就職の状況

業種ごとの有効求人倍率(求職者に対する求人の比率)

職種	有効求人倍率(前年比)
情報処理・通信技術者	2.36 →
デザイナー	0.37
一般事務	0.32
会計事務	0.73
運輸・郵便	3.30 ↑
商品販売	2.03
営業	1.81
サービス全般(飲食・接客等)	2.88 ↑
(参考)社会福祉	2.77 ↑
(参考)輸送・機械運転	2.52 ↑
(参考)建設・採掘	5.21 ↑
(参考)生産工程	1.69 →

事務職の求人倍率が1倍未満になる傾向は長期間続いており、今後も変わらないと考えられています。

※職業紹介は2019年5月厚労省調査
職業別一般職業紹介状況[実数](常用(除パート))

情報分野で必要な能力・知識

論理的に考える力

- コンピューターにさせる仕事を「書く」ためには、まず人間が段取りを理解しなければいけません。
- 「こんなことをしたい」という、漠然としたことからスタートして、「具体的にはどうしたらいいか」を考える能力が必要です。
- 数学で言えば、公式を暗記する能力ではなく、「文章題」を解く能力です。

⇒プログラミング能力に関係します

自分で勉強する姿勢

- 情報処理の世界は技術の進歩が早く、すぐに新しい技術が登場します。
- 取り残されないためには、学び続ける姿勢が必要です。

⇒今の時代、IT以外の分野でも同様です

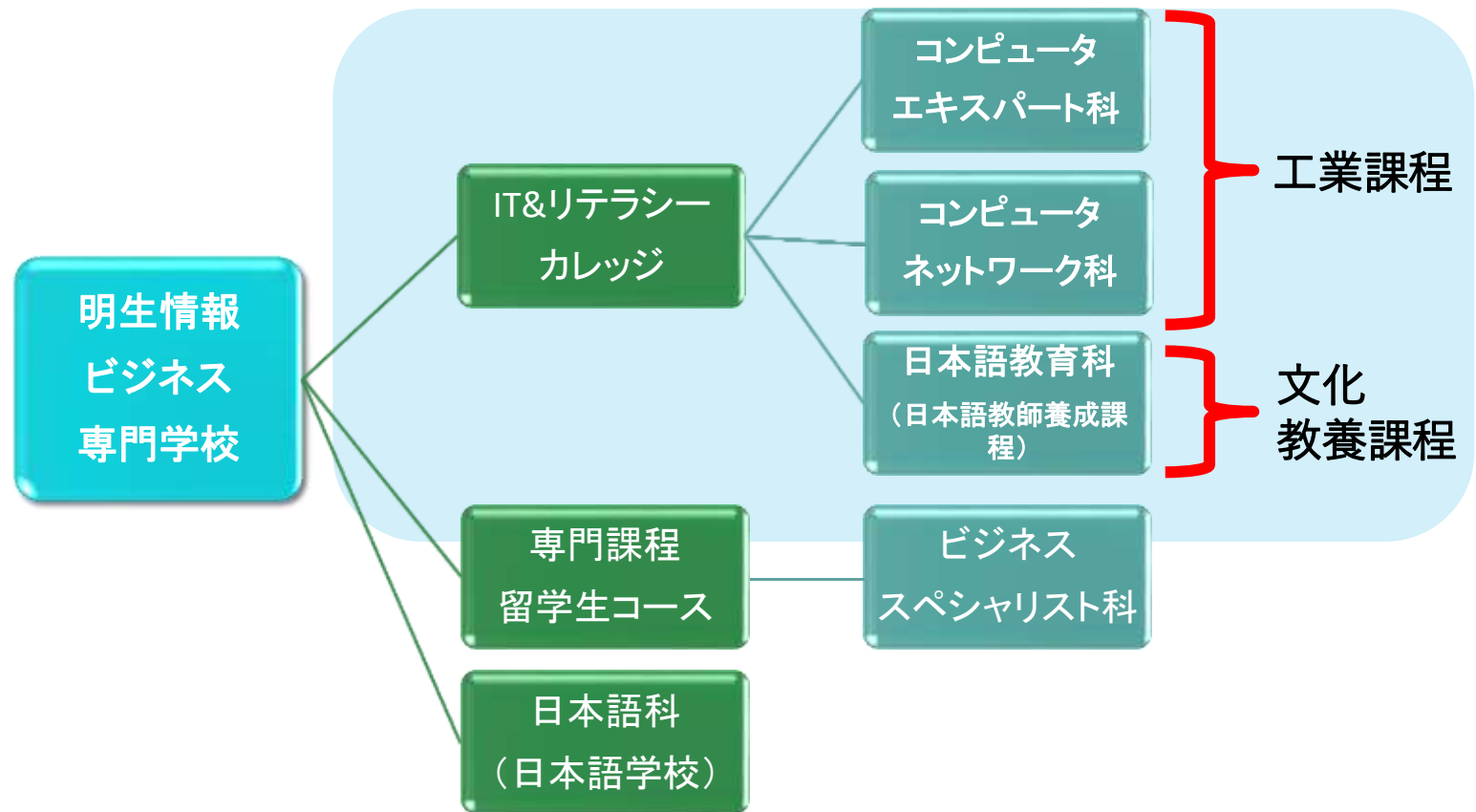
「ある程度」のコミュニケーション能力

- コミュニケーション能力が無くてもいい仕事は、ほとんどありません。
- ただし、情報処理分野は、「技術力があれば」コミュニケーションが苦手でもなんとかなる分野です。

⇒仕事上のコミュニケーションは必要

明生情報ビジネス
専門学校
IT&リテラシーカレッジの
ご紹介

IT&リテラシーカレッジは 国内生を対象とした部門です



IT & リテラシーカレッジは、国内高校卒業生・社会人の方を主な対象とした部門です。

明生情報ビジネス専門学校は、その他に留学生コース(留学生対象の専門学校)と、日本語学校を設置しています。

この3部門は個別に教育活動・募集活動を実施しています。別カリキュラム・別クラスで運営し、校舎も別です。

内部では3つの学校に分かれているとご理解ください。

明生情報ビジネス専門学校 IT&リテラシーカレッジ 6つのポイント

1. 少人数制
2. 情報技術分野の科目が充実
3. 資格合格率が高い
4. 学費減免制度が充実
5. 就職実績
6. 駅から近くて通いやすい

ポイント1: 少人数制

工業課程2学科(コンピュータエキスパート科、コンピュータネットワーク科)の募集定員は計25人です。

☆メリット

実習授業、資格対策などで、学生個々の状況を把握した指導が可能。

学生の適性・性格を考慮に入れた就職指導(性格が社風に合うか?など)。

☆デメリット

大きなイベントを開催出来ない、実行委員などの経験は積めない。

多人数の中に隠れることは出来ない。

「良い・悪い」ではなく「合うか、合わないか」の問題です

ポイント2: 情報技術分野の科目が充実

情報技術分野の授業科目が充実しています。

プログラミング教育を特に重視。複数の言語を学習することで理解を深めるスパイラル型の学習モデルを採用。

1年次	2年次	3年次
Scratch	JavaScript	C#
Python	Java	C
CASL(アセンブラ)	PHP	R

理論は大学でも教えている教員が、応用実技は実務経験豊富な教員が授業を担当します。**教員のレベルには自信があります！**

クラウド、AIに対応する新カリキュラムを準備中。

ポイント3： 資格合格率が高い

コンピュータエキスパート科 卒業生の資格取得率

	ITパスポート試験	基本情報技術者試験・ 情報セキュリティマネジメント試験
2015年度	66%	75%
2016年度	100%	66%
2017年度	92%	50%
2018年度	100%	71%
2019年度※	80%	50%

※現時点での数値

ポイント4: 学費減免制度が充実

学校推薦入試または自己推薦入試に合格すると、学費が減額されます。

種別	減額内容	採用人数
特待A	後期授業料（25万円）を全年度免除	定員の1/4以内
特待B	後期授業料（25万円）を初年度免除	定員の1/3以内
特待C	入学金（10万円）免除	定員まで

ポイント5: 就職実績

2016～2018年 3年連続 卒業生全員が就職

2017年度内定先

NTTデータMCS、アッドシステム、関東情報サービス、コスモ石油、システムバンク、センコー情報システム、TNS、日本総研情報サービス、日本プレースメントセンター、ビーエスアール、フジアルテ、富士通エフ・アイ・ピーDC、ワイジェーワイコーポレーション

2018年度内定先

富士通エフアイピーDC、センコー情報システム、日通情報システム、京成情報システム、NTTデータMCS、ビーエスアール、トッパンフォームズオペレーション、システムイオ

2019年度内定先(現時点の内定率90%)

NTTデータMCS、エスペラントシステム、システムクリエイト、システムバンク、センコー情報システム、トッパンフォームズオペレーション、日本プレースメントセンター、ビーエスアール

ポイント6: 駅から近くて通いやすい

IT&リテラシーカレッジは1号館で授業を実施します

JR新松戸駅から徒歩3分



こんな人に入學してほしい

ITを**真剣に学ぶ意欲**のある人

- コンピュータが好き、は必須。
- ITは、勉強が必要な分野です。**決して簡単ではありません。**自発的に学ぶ気持ちが無ければ続きません。

自分で考えて行動することが好きな人

- 特にプログラミングは、「考えること」と、試行錯誤することが重要な分野です。うまくいなくても、何度も試すことが求められます。
- 例えばゲームであれば、「ゲームが好き」から始まって「こんなゲームを作りたい」になるような人が向いています。

こんな人は難しい・・・

学校に通えない人

- 専門学校は**出席重視**。朝9時には着席する必要があります。
- プログラミングの授業は、欠席するとすぐに分からなくなります。

基礎学力があまりにも低い人

- 高校の数学 I について行けない人は、情報技術分野は難しいです。
- ただし、暗記ではなく、理解力の問題です。

根気が無さすぎる人

- プログラミングは、うまくいかない原因を根気よく探して直す作業です。

学科と カリキュラム

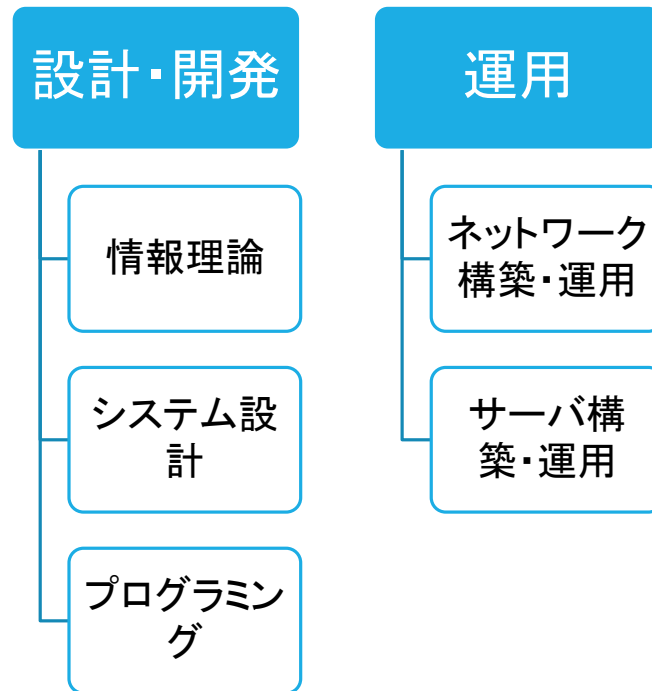
学科

課程	学科	修業年数	募集定員
工業専門課程	コンピュータエキスパート科	3年	男女15名
	コンピュータネットワーク科 ITシステムコース	2年	男女10名
	コンピュータネットワーク科 ITライセンスコース	2年	
文化教養専門課程	日本語教育科	2年	男女10名

コンピュータエキスパート科

3年制

「システム設計・開発」と「運用」の両方を学ぶカリキュラム



学科選択のポイント

2年制と3年制

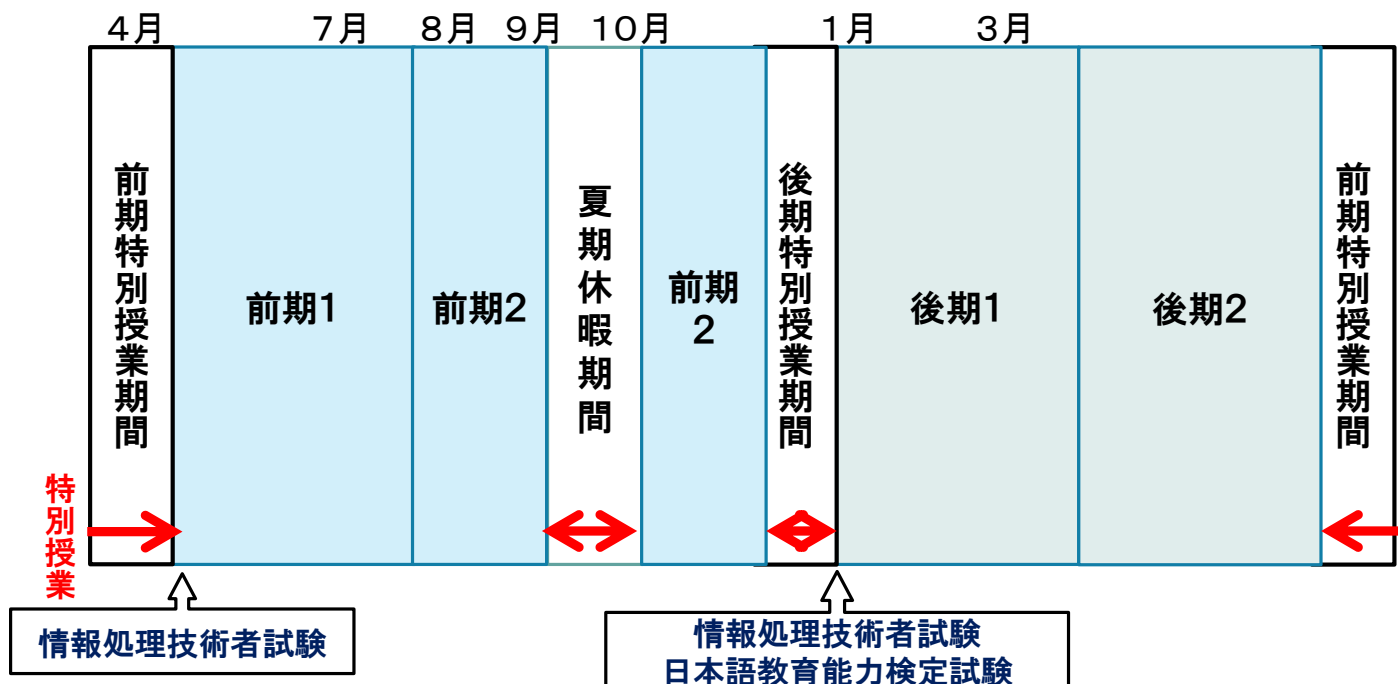
- コンピュータエキスパート科は3年制、コンピュータネットワーク科は2年制です。
- コンピュータネットワーク科は、コンピュータエキスパート科の前半を抜き出したカリキュラムになっています。
- 年齢の問題が無いのであれば、3年制のコンピュータエキスパート科をお勧めしています。2年課程では、就職活動開始までの基本情報技術者試験受験回数が1回しかありませんが、3年課程では3回になります。この資格に合格することで、就職が断然有利になります。

技術系とビジネス系

- 就職のし易さや将来性を考えると**圧倒的**に技術系が有利です。

4学期制と資格対策期間

資格試験の直前に、対策授業のみの期間を設けることで合格率向上



授業について

授業時間割

- 1コマ50分
- 9時から17時10分までの8時間制
- 月～金曜に実施(資格試験等は土・日実施の場合あり)
- 1週間に30コマ程度(通常は1日6コマ、午後3時15分まで)

出席について

- 専門士の称号を得るためには年間850時間の履修が必須。本校は年間950時間程度の授業を実施しています。
- 就職したらフルタイムで働くこととなりますので、出席や課題提出は厳しく判断しています。
- 平日17時30分までの時間帯にアルバイトを入れることを禁止しています。

3年課程での 理想的な成長ステップ

1年前期

- 情報理論の基礎を学び、ITパスポート試験に合格する。
- キーボードに慣れる。プログラミングの基本を習得する。

1年後期

- より高度な理論を学び、基本情報技術者試験に合格する
- プログラミングの数をこなし、経験を積む。基本的なアルゴリズムを理解する。

2年前期

- ネットワークの構築、運用技術を習得する。
- オブジェクト指向の考え方を学び始める。UML、XMLを学ぶ。

2年後期

- Linuxを使ったサーバ構築、運用技術を習得する。
- Java言語のプログラミングを習得。
- 応用情報技術者試験に挑戦。

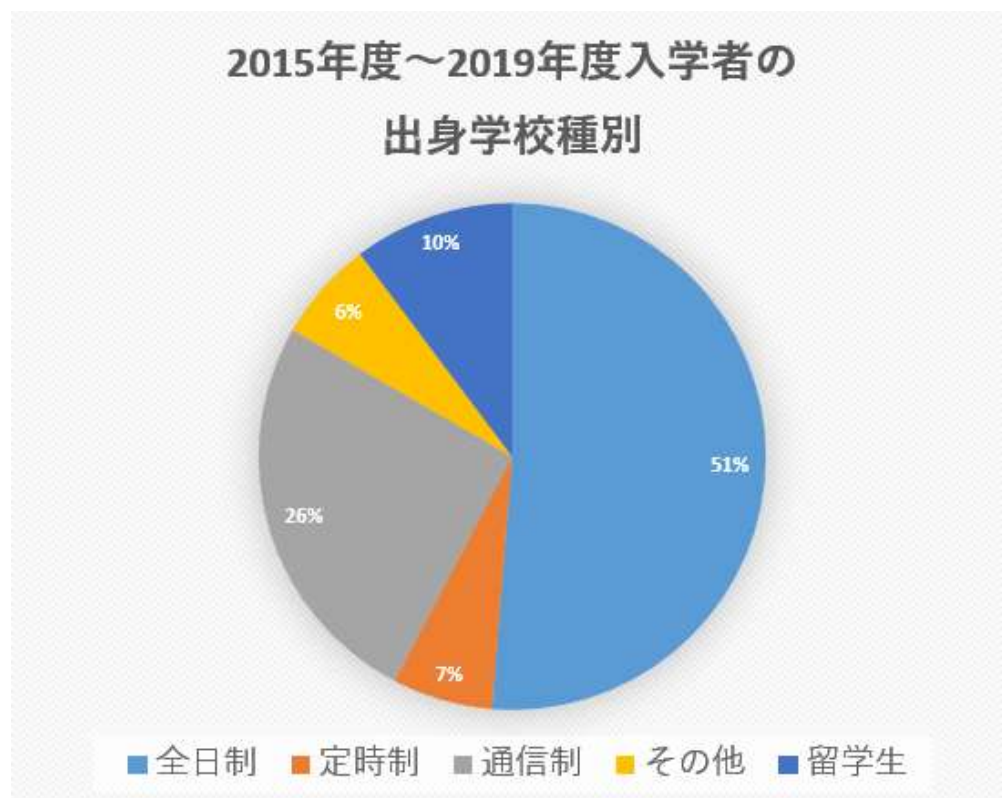
3年前期

- 就職活動
- C#による実践的なアプリケーション開発スキルを習得。
- デザインパターンを学び、オブジェクト指向について詳しくなる。

3年後期

- 卒業プロジェクトで、大規模なプログラム開発の経験を積む。

入学者の経歴



入試について (募集要項)

学校推薦入試について

特徴

- 現役高校生を対象に、評定平均で評価する入試です

選考方法

- 指定校からの推薦の場合、書類選考のみ
- それ以外の場合は書類選考に加えて、面接と学力試験を行う場合があります

合格基準

合格種別	合格基準
特待A	評定平均3.8以上かつ出席状況が良好で面接試験の結果が優れている者
特待B	原則として評定平均3.4以上
特待C	原則として評定平均3.0以上

近隣の高校へ1ヵ月までに指定校の依頼をしいま

- 関心のある方は進路指導の先生に相談してください
- **未依頼の学校の場合、学校に依頼します**

自己推薦入試について

特徴

- 資格取得や、大学卒業・社会人経験などを評価する入試です

選考方法

- エントリー期間にエントリーシートを提出、書類選考と面接による審査を実施。審査に合格した場合は合格内定となります。
- 出願期間に願書を提出することで正式な合格となります。